

JT-I240
テレサービスの定義
〔 Definition of Teleservices 〕

第2版

1989年4月28日制定

社団法人
情報通信技術委員会

THE TELECOMMUNICATION TECHNOLOGY COMMITTEE

本書は、(社)情報通信技術委員会が著作権を保有しています。

内容の一部又は全部を(社)情報通信技術委員会の許諾を得ることなく複製、転載、改変、転用及びネットワーク上での送信、配布を行うことを禁止します。

<参考>

1. 国際勧告との関連

本標準は、1988年CCITT総会において承認された勧告I.240に準拠したものである。

2. 上記国際勧告等に対する追加項目等

2.1 オプション項目

なし

2.2 ナショナル・マター項目

なし

2.3 上記国際勧告より削除した項目

なし

3. 改版の履歴

版数	発行日	改版内容
第1版	昭和63年 5月31日	制定
第2版	平成元年 4月28日	CCITT 勧告 I.240 の修正に伴い改版第1版2章は JT-I 210 に移管 第1版の3章に対応する部分は JT-I241 として標準制定

4. 工業所有権

本標準に関わる「工業所有権等の実施の権利に係る確認書」の提出状況は、TTCホームページでご覧になれます。

目 次

1. 概 要	1
2. I S D Nが提供するテレサービスの定義	1
3. テレサービス提供法の標準化	2
4. テレサービスの文章による定義	3

1. 概要

TTC標準JT-I 210はISDNが提供するテレコミュニケーションサービスを定義するための原則を記述している。この原則はベアラサービス、伝達能力、テレサービスの概念も含めて記述している。又、このようなサービスの記述と定義のためのツールを提供している。

本標準の目的はISDNが提供すべきテレサービスの定義である。これらの定義は要求される網能力を定義するために使用されて、JT-I 241に記述されるようなテレサービスの基礎となる。

テレサービスは文章による定義と記述、属性、動的記述により説明される。このテレサービスは顧客がサービスをアクセスするアクセスポイントを統合的に定義する。CCITT勧告I. 140とJT-I 210の付属資料Cはこの目的のため属性の使用について記述している。

2. ISDNが提供するテレサービスの定義

この節は今までISDNによりサポートされ、認識されたテレサービスを定義する。追加されるテレサービスは今後の検討課題である。

テレサービスの定義はJT-I. 210付属資料Cで参照される属性のリストが基本となる。

レイヤ4プロトコルからレイヤ7プロトコルとユーザ情報種別属性値（即ち、属性番号10から14）、低位レイヤ属性値（即ち、情報転送属性）、アクセス属性、一般属性はテレサービス機能とし標準化される。ユーザ情報種別は主属性として考慮される。この属性値はISDNにより提供されている特別なサービスのためのCCITT EシリーズFシリーズ勧告で使われるサービス名と同じである。

サービス記述で参照されるテレサービスの情報転送とアクセス属性値はISDNの回線モードとパケットモード伝達能力を使用している時に提供された値である。電話の場合、回線モードのみ使用できる。低位レイヤ属性値を切り換えて使用する手段は許可されるが今後の検討課題となる。相互接続サービスの展望から、JT-I 230で定義したベアラサービスと同じ伝達能力であるテレサービスの低位属性値の組み合わせは可能な限り行なわれることが望ましい。

下記のテレサービスが現在まで提供、認識されている。

JT-I 241	{I} ……	電話
	{II} ……	テレテックス
	{III} ……	テレファックス 4
	{IV} ……	ミクストモード
	{V} ……	ビデオテックス
	{VI} ……	テレックス

これらのサービスの文章による記述（ステップ 1.1）と静的記述（ステップ 1.2）はJT-I 241で与えられる。JT-I 220で定義した必須ベアラサービスのための基本動的記述（ステップ 1.3）もテレサービスに適用する。

（注）ミクストモード、ビデオテックス、テレックスの文章による記述はない。

3. テレサービス提供法の標準化

I SDNと、関連するユーザ設備の発展を促進するために、J T-I 2 4 1の表で記述されるテレサービスの提供法を以下に概説する。

この表は2つの部分からなる。

(a) 主属性による全体的なテレサービス提供法の記述（即ち、高位レイヤ属性値、ユーザ情報種別）。

全体的な標準化テレサービスの提供法は以下のように記述される。

E：必須のテレサービスである。

A：付加テレサービスであり、いくつかのI SDNで利用可能である。

F S：このテレサービスのサポートの標準化は今後の検討課題である。

(b) 各テレサービス内での、合意された付随属性の記述（即ち高位レイヤ属性値、レイヤ4プロトコルからレイヤ7プロトコル）。もしI SDNがこのサービスが提供され、このテレサービス内の付随属性の組み合わせの標準化提供法は以下のように記述される。

E：属性の必須の組み合わせである。（I SDNが特別なテレサービスをサポートする場合）

A：属性の付加的組み合わせで、いくつかのI SDNで利用可能である。

（I SDNが特別なテレサービスをサポートする場合）

F S：この属性の組み合わせのサポートの標準化は今後の検討課題である。

(注) 発展期間中、“E”でマークした全ての項目が全ての網に備えているとは限らない。

J T-I 2 4 0はI SDNによるテレサービスの標準化サポートを与える。テレサービスの標準化提供法を表1/J T-I 2 4 0に示す。

表1/J T-I 2 4 0
(CCITT I.240)

I SDNによるテレサービスの全体的な標準化提供法

J T-I 2 4 1	〔I〕	電 話	E/A (注)
	〔II〕	テレテック	A
	〔III〕	テレファックス 4	A
	〔IV〕	ミクストモード	A
	〔V〕	ビデオテックス	A
	〔VI〕	テレックス	F S

(注) I SDNが基本テレコミュニケーションサービスとして電話を提供すると予想される。

いくつかの網はテレサービスとしてではなくベアラサービスとして電話を提供するだろう。

4. テレサービスの文章による定義

J T - I 2 4 1 に参照されているテレサービスの定義識別の総覧を下記に示す。

J T - I 2 4 1 [I] 電 話

電話サービスは網を経由しユーザによる両方向同時の音声会話を提供する。

J T - I 2 4 1 [II] テレテックス

テレテックスは I S D N を経由し、自動メモリ間転送をベースに、テレテックス符号情報による文書の通信を可能にする加入形のサービスである。

J T - I 2 4 1 [III] テレファックス 4

テレファックス 4 は I S D N を経由しファクシミリ符号化した情報による文書の通信を可能にする加入形のサービスである。

J T - I 2 4 1 [IV] ミクストモード

このサービスはテキストと固定イメージが混在した情報からある文書をエンドエンド間で転送するため、テキストとファクシミリを複合した通信を提供する。高位レイヤ属性はテレテックスとテレファックス 4 に関する標準に基づいている。

J T - I 2 4 1 [V] ビデオテックス

I S D N におけるビデオテックスサービスは、既存のビデオテックスのテキスト（アルファベット）及びグラフィック情報に対して情報検索およびメールボックス機能を付加し、サービスを強化したものである。

J T - I 2 4 1 [VI] テレックス

このサービスは、会話型のテキスト通信を提供する。S/T 参照点におけるテレックス信号は、I S D N 物理層の上で国際的に同意を受けたテレックスに関する、C C I T T 勧告に従う。